

小・中・高校生が議員に 第15回俱知安町子ども議会開催

11月23日（木・祝）、役場3階議場にて子ども議会が開会され、町内各小・中・高校の代表8名が子ども議員となり、町長・教育長に対して町政に関する質問をしました。子ども議会は、子どもたちに議会を身近に感じてもらうとともに議会の仕組みを理解してもらうことを目的に開催されており、議長・事務局長についても中学生が担当します。

開会を前に、庁内放送が流れると子ども議員たちは、緊張した面持ちで入場し、それぞれ席につきました。主催者である青少年育成会平野会長が「子ども議会は、子どもの視点でよりよいまちづくりを提案する場。あまり緊張せずに発言してほしい」と話した後、議長・事務局長の進行により、議事に入りました。

質問は、生活に身近な課題のほか町が抱える課題など多岐にわたり、子ども議員は、授業で学んだことや事前に調べたことなどを踏まえながら、町の未来を見据えた要望や質問を堂々と発言していました。



通学路の整備について
私たちが安全に登下校できるよう、歩道がない道路や傾斜のある道路の整備をお願いしたい。
中学校内のWi-Fi設置について
多くの生徒が同時にパソコン室を利用すると通信速度が遅くなり不便。Wi-Fi環境を整備してほしい。
俱知安町内における農業後継者について
農業従事者の減少・高齢化が進む中、農業高校生としてこの問題にどう取り組むべきか。
防災無線受信機の設置について
町内の全家庭に防災無線受信機の設置を検討してもらえないか。

質問事項
脱原発・非核宣言をしてほしい
原発に頼らない原発ゼロのお願いと、戦争のない平和な社会の実現のためのお願い。
学校のバス利用について
教科書で学ぶだけではなく、見学・体験して学ぶ授業を積極的に行うためバスを利用したい。
俱知安町がよりよくあるために
観光の観点から、より多くの人にこの町を訪れてもらうため道の駅が必要だと思う。
幅広い年齢層が利用できる図書館の新設について
高校生までの子どもにとって勉強できる場、幅広い年齢層が集える場として図書館があるといいと思う。

料理を通じた親子のふれあい

子育て講座「親子でポテトペーストクッキング」

11月26日（日）、町教育委員会社会教育課が子育て講座として、俱知安農業高校調理室にて親子を対象とした料理教室を実施し、参加した親子9組がポテトペーストを使ったドーナツとマフィンづくりに挑戦しました。ポテトペーストとは、俱知安農業高校が規格外のじゃがいもを加工して開発されたもので、同校が販売するお菓子などに幅広く利用されています。

講座では、初めに同校生徒が2つのメニューの作り方を説明した後、受講した親子はそれぞれ「いいにおいがするね」「おいしくできるかな」などと会話をしながら協力して作業を進めていました。

この日は、お母さんだけではなくお父さんの参加も多く見られました。普段は仕事で忙しい方も料理を通じて子どもとふれあうことができたのではないのでしょうか。



▲親子が協力して「ぼてドーナツ」を揚げる様子

子育て支援センターだより

2月の広場のお知らせ

あいあい広場（0歳） 2月 7日（水）
きらきら広場（1歳） 2月 14日（水）
のびのび広場（2・3歳） 2月 21日（水）
どの広場もひな飾りの制作をします。

■申込／1月9日（火）9時30分～

子育て講座（クッキング）

■日時／2月1日（木）9時45分～12時

■場所／町保健福祉会館

■内容／いも団子汁、おにぎり

■申込／1月9日（火）9時30分～

子育て講座（ヨガ）

■日時／2月8日（木）10時～11時30分

■場所／町保健福祉会館

■持ち物／ヨガマット（バスタオル）、飲み物（2人分）

■申込／1月22日（月）9時30分～

子育て支援センター（南2東1） ☎22－0419

開館時間9時30分～12時、13時～16時

（11月～3月）

（正午～13時は玩具などの消毒のため一時閉館）

休館日 土・日曜日、祝日、年末年始

冬は乾燥に注意

これからの季節、空気の乾燥などが身体にさまざまな影響をもたらします。

湿度が低下するとウイルスが活発になり感染症が流行します

部屋の湿度を保つために加湿器などを使用し、のどや鼻の粘膜を守りましょう。加湿器が無ければ、濡れタオルを干すことも効果的です。

また、水分補給も予防策の一つです。のどや鼻の粘膜を潤してウイルスの侵入を防ぐとともに、ウイルスを体外に排出する作用を助けます。

さらに、風邪をひいてしまうと発熱や食欲低下、下痢、嘔吐などの症状により身体からの水分排出が多くなるため、普段よりも水分を補給する必要があります。

お肌の乾燥がかゆみや皮膚トラブルの原因となります

部屋の湿度を保ち、入浴後には保湿剤を塗ることで乾燥を防ぐことができます。お肌は常に清潔で潤いを保つことが重要です。



脳卒中や心筋梗塞の増加にも関係があります

冬場は、脳卒中や心筋梗塞の発症が増えます。寒くなつて血圧が上昇することも原因ですが、水分補給も関係があります。寒くなると汗をかかないため、のどの渇きを感じにくくなります。のどが渇かず水分の摂取が少なくなると血液の粘度が上がります。粘度が上がるとドロドロな血液になると血管が詰まりやすくなり、脳卒中や心筋梗塞を引き起こす可能性が高くなります。冬も意識的に水分を摂るようにしましょう。

新年会などの機会にも水分補給をしましょう

これからの時期は楽しいイベントも多く、飲酒の機会が増えると思います。アルコールには利尿作用があり、多量に飲酒をすると身体は脱水状態となります。アルコールを飲んだときには、意識的に水分を補給して脱水を防ぎましょう。

身体を潤し、元気に冬を乗り切りましょう。

☎町福祉医療課保健指導係

☎22－1144

雪の事故を防ぎましょう

冬の北海道では、屋根の雪下ろしや除雪など雪に関する事故が毎年発生しています。

平成24年には、雪の事故による死傷者数が515人と過去最悪を記録し、その後は減少傾向ですが、年間200件を超えているという現状があります。そのうち、「雪下ろし中の転落」や「はしごからの転落」など雪下ろし関連の事故が、全体の6／7割を占めています。年齢別みると、事故の半数以上は65歳以上の高齢者で、現役世代の3・5倍以上の発生率があるそうです。気象的な面から、平年より降雪量が増える、雪の事故が増える傾向があり、1／2月が最も多くなります。

雪下ろしの事故発生には、建物の構造も関係しています。北海道の住宅で使われている屋根材の多くは金属板で、滑りやすいという特徴があります。車庫や物置の雪下ろしも、住宅と同じように滑りやすい屋根材となつていることや、面積が狭いことから、転落の危険が高いといわれます。

雪下ろしは危険が伴う作業ですが、雪下ろしが必要な場合は、業者に依頼するか、どうしても自分で行うという場合は、十分な安全対策と細心の注意を払いましょう。

屋根雪の安定性を確認

晴れた日や気温が0℃を超えているとき、また、雪と屋根の間が濡れている場合は屋根雪の安定性が低い。

複数人で作業をする

事故などに備えて、必ず2人以上で作業をする。やむを得ず1人で行う場合は、家族や近所に声を掛け、携帯電話を持つ。

安全な装備

ヘルメットや滑りにくい長靴・手袋を着用し、転落に備え命綱を使用する。

はしごはしっかりとかける

屋根に対してまっすぐかけ、足元をしっかりと固定する。はしごに乗ったまま雪下ろしをしない。

足場の確保

屋根雪は全部落とさず、10センチ程度残す。落雪に巻き込まれないよう屋根の上から雪下ろしをする。（軒先は最後に落とす）

☎町福祉医療課地域包括支援センター
☎23－0100